

令和3年度 事業計画



特別養護老人ホーム オレンジタウン笠寺
ショートステイ オレンジタウン笠寺
オレンジタウン笠寺 デイサービスセンター
特別養護老人ホーム オレンジタウン笠寺Ⅱ
ケアプランセンターオレンジ(居宅介護支援事業所)

1. はじめに

令和 3 年度は法人設立から 8 期目、特別養護老人ホームオレンジタウン笠寺開設から 6 期目を迎える。特別養護老人ホームオレンジタウン笠寺Ⅱは 3 期目を迎える。

社会福祉法人善常会の理念である「住み慣れた地域でいつまでも安心して暮らし続けられる町づくりをめざして」を具現化すべく、地域社会との連携強化に注力し、地域社会から必要とされる存在となれるようアプローチを継続したい。

社会福祉法人として、中長期にわたり安定的に運営できるよう、着実に歩みを進め、サービスの提供にあたっては、理念の浸透、個別ケアの強化、ケアの統一、人材確保・育成と当たり前のことを疎かにせず丁寧に実行していきたい。

また今年度は、第 8 期介護保険事業計画の開始年であり、介護報酬改定に対しても法令を遵守し、遅滞なく対応していきたい。

昨年度来、新型コロナウイルス感染症により、感染予防策をはじめとした様々な対応を実施しているが、法人内にウイルスを持ち込まず、拡げない取組みを継続し、今後のワクチン接種、感染症 B C P の策定など適切に対応する。

以下の取り組み課題については、中長期的なビジョンに立ち、構築、実行が必要な事柄もあり、内容によっては複数年度で取り組むこととする。

2. 基本方針

(1) 地域に根ざし、地域包括ケアシステムの一端を担う

重度な要介護状態になっても、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後までつづけることができるよう、地域社会と連携して町づくりに参画していく。

(2) ICF モデルの視点に立ったケアの提供

利用者の生活歴や生活機能の把握に努め、「している“活動”」の向上を目指し、結果として「その方らしい生活」を提供していく。

3. 行動指針 — 私たちの行動 3 か条 — (令和 1 年度策定)

私たちはその人らしい暮らしをサポートします

私たちは常に温かく支えあうチームを目指します

私たちは地域と一緒にこの町をハッピーにします

4. 主な取り組み課題

(1) 利用者の尊厳を守り、自立支援に向けたサービスの提供

- ・利用者一人ひとりが、自分らしく尊厳を重視した生活が営めるよう、自立支援を観点にしたケアプランを多職種協働で作成し、それに基づいたケアが標準的に誰でも行えるよう質向上を図る。
- ・今年度は介護報酬改定がなされるため、法令順守に努め、必要な対応を行う。また介護サービスの質の評価に向けた PDCA サイクルを推進し、科学的介護への取り組みを行う。

(2) 組織文化の醸成（自律した職員の育成）

- ・就労人口が減少し、介護人材の不足が深刻化する現在、必要な人材の確保ができるよう、新卒者採用に向けては、実習生の受入など教育機関との連携を密にし、既卒者採用に向けては、就職イベントへの参画など積極的な採用活動を行う。
- ・見守り機器や ICT の活用による業務の効率化、業務負担軽減を図り、生産性向上に向けた取り組みを推進する。
- ・勤怠管理、人材育成（人事考課含む）にシステムを導入し、タイムレコーダーを廃止し、電子での届出とする。事務負担の軽減ならびに育成のシステム化、見える化を行う。（予算：1,177 千円）
- ・理念の浸透への取り組みを継続し、自律した職員の育成、職員が「善常会で働く意味」を感じられる組織文化の醸成を引き続き目指す。

(3) 地域との共生に向けた取り組み

- ・サロンの開設、認知症カフェの拡充をはじめ、地域の方々が困ったときに相談できる場所、気軽に立ち寄れる場所となれるよう、引き続き関係機関との連携に取り組む。
- ・学区の行事や地域のサロン等に専門職がアウトリーチできるよう PR を行う。

(4) 災害対策

- ・災害時でも 3 日程度は最低限の電力が確保できるよう、オレンジタウン笠寺に非常用発電機ならびに油庫を設置する。設置にあたっては補助金の活用を検討する。（予算：10,500 千円）
- ・笠寺学区と地域防災協力事業所の覚書を締結し、地域との協力体制を構築する。

(5) 事業運営の透明性の向上

- ・主にホームページを活用して情報発信を行う。ステークホルダーのニーズに応え得る情報をスピーディーに発信できるよう、随時内容を更新していく。

5. 実施する事業

(1) 特別養護老人ホーム オレンジタウン笠寺（定員 80 名）

開設 6 年目となる令和 3 年度は、財務基盤の安定化と、医療ニーズの高まりに伴う入院者の状況を鑑み、97%の稼働率（1 日当たりの平均実利用者数 77.6 名、年間延べ利用者数の見込み 28,324 名）で計画、事業活動資金収支差額は 52,184 千円（対収入比 12.2%）を予定する。

① 利用者の尊厳を守り、自立支援に向けたサービスの提供

プロジェクトチーム（Let'sRebornProject）の活動を継続し、計画的かつ段階的に課題解決を図っていく。

この 5 年間で作り上げてきたサービスの在り方を、PDCA サイクルにより継続的改善につなげる。

○暮らしの継続を意識したケアマネジメント

ユニットケアの基幹となる 24 時間シートの拡充を図り、一人ひとりの想いに寄り添ったケア、その方らしい暮らしの実現ができることを目標とする。

○職員間の情報共有、ケア方法の統一

現在の経時記録を SOAP 記録へ変更し、入居者本人主体の記録とし、記録の共有を円滑にする。

またカンファレンスでの一層の情報共有、ケア内容の標準化を目指す。

○特長ある施設運営に向けた取り組み

- ・看護職員の 24 時間配置が定着し、医療的ケアへの取り組みは一定の成果が得られるようになった。今後も 24 時間配置を継続する。
- ・今春から配置医が変更になるため、所属医療機関と連携し、スムーズな移行に取り組む。
- ・リハビリ専門職を増員し、その機能をブラッシュアップする。終局的には 1 フロアに 1 名のリハビリ専門職の配置を予定している。日常的にリハビリの視点、技術を生かしたケアができることを目指し、アウトカムを出し、科学的介護に反映できる特養を目指す。
- ・歯科衛生士のラウンドおよび関わりに対し、科学的介護の取り組みを行う。
- ・日本ユニットケア推進センター指導のもと、ユニットケアの在り方に沿った共同生活室の設えを見直している。ユニットの冷蔵庫に適した物に買替えを行う。

（予算：1,040 千円）

○名古屋市自己評価・ユーザー評価事業への参加

自らのサービスの質を評価することで、課題抽出、解決へとつなげる。

② 自律した職員の育成

○組織文化の醸成

職員手帳（ハウスルール）の作成、部門ごとの目標設定と PDCA など、善常会マインドのある自律した職員の育成に取り組む。

○教育体系の策定

- ・「個別ケアのガイドライン」に基づく教育指導を実践する。
作成したケアマニュアルを運用し、ユニットケアでの個別ケアを多職種で共有、理解できるようにする。
- ・キャリアステージに合わせた教育が実施できるよう、外部研修に積極的に参加させ、モチベーション向上とともに、自己覚知につなげる。
- ・人材育成システムを導入し、職員との面談記録、人事考課等の記録等、育成の進捗管理ができるようにする。

○EPA 介護福祉士候補者、技能実習生等外国人スタッフの教育

現在、2名のEPA介護福祉士候補者、2名の技能実習生が在籍している。昨年度よりコロナ禍により外国人スタッフの入国が停止している状況にある。それらを含め、その対応、育成にあたる。(予算：5,246千円)

○職員の負担軽減と安全なケアの提供

- ・職員の腰痛予防、負担軽減を目的として、ノーリフティングケアに取り組んでいる。今年度は、スタンディングリフトの導入を予定している。(予算：403千円)
- ・開設時より脱衣室に据付の手すりがないことで、アクシデント、インシデントが発生していることから、安全なケア提供のため手すりの据付工事を行う。併せて脱衣室の扉に鍵を設置し、安全に利用できるよう配慮する。(予算：534千円)
- ・現状、夜勤は16時～翌日10時までの2勤務夜勤だが、職員の負担軽減ならびに不適切ケアの予防のため、日本ユニットケア推進センターが推奨する22時～翌日7時までの1勤務夜勤へと順次移行する。

③ 地域社会との共生

○高齢者サロンの開催

昨年度は予定していたサロンがコロナ禍により、全く開催できなかった。感染対策等に配慮し、開催ができる状況になれば、引き続き地域に気軽に活用いただける場所、人材を目指す。

○子どもサロンの検討

当施設を利用し、地域の子ども達の居場所づくり、学習支援、先々は子ども食堂につながられる活動を、社会福祉協議会と協同しながら検討を開始する。

④ 災害対策

○地域防災協力事業所の覚書締結

笠寺学区との間で地域防災協力事業所の覚書を締結する。

○地域との合同防災訓練の実施

大規模災害の発生に備え、笠寺学区区政協力委員会はじめ地域消防団等と合同で防災訓練を実施する。

⑤ 施設の長期的な修繕計画

○厨房設備の更新

開設時に厨房設備一式をリース契約しているが、そのリース契約が来年2月に期間満了を迎える。ほとんどの物品は再リースとするが、消耗が激しく再リースが困難な物品について購入を予定する。(予算：2,483千円)

(2) ショートステイ オレンジタウン笠寺 (定員 10名)

在宅での暮らしを支える社会資源として、極力有効に活用いただけるよう、原則として長期間のショートステイの受入れは行わず、真の在宅支援ができるよう運営していく。また、特養において入居者の入院加療による、空床のショートステイ利用を促進し、90%の稼働率(年間延べ利用者数の見込み 3,285人)で計画、事業活動資金収支差額は6,466千円(対収入比 12.5%)を予定する。

① 利用者の尊厳を守り、自立支援に向けたサービスの提供

○デイサービスとの連携

引き続き、情報管理や連絡会議、職員配置等で一体運営に取り組む。

○暮らしの継続を意識したケアマネジメント

自宅での暮らしをショートステイ利用中も継続できるよう、アセスメント情報や担当者会議での情報を24時間シートに反映し、ケアプランはR4で作成することで、状況の可視化につなげる。

○職員間の情報共有、ケア方法の統一

現在の経時記録をSOAP記録へ変更し、利用者本人主体の記録とし、記録の共有を円滑にする。カンファレンスでの情報共有、ケア内容の標準化を目指す。

○個別機能訓練の充実

当ショートステイの特長となっており、機能訓練指導員が居宅訪問等、積極的に機能している。引き続き、ショートステイ利用中にADLを維持する、むしろ向上できる個別機能訓練を実践していく。

○緊急受け入れへの対応

ショートステイの本来的な役割を鑑み、特養入居者の入院による空床がある場合等、積極的に緊急短期入所の受け入れを行う。

○ユニットケア施設としての設え

ユニットケアの在り方に沿った共同生活室の設えを見直している。ユニットの冷蔵庫を適した物に買替る。(予算：130千円)

○名古屋市自己評価・ユーザー評価事業への参加

自らのサービスの質を評価することで、課題抽出、解決へとつなげる。

昨年度、評価の低かった整容への取り組みならびに余暇活動について注力する。

② 人材確保と定着

○組織文化の醸成

職員手帳（ハウスルール）の作成、部門ごとの目標設定と PDCA など、善常会マイ
ンドのある自律した職員の育成に取り組む。

○教育体系の策定

- ・「個別ケアのガイドライン」に基づく教育指導を実践する。
作成したケアマニュアルを運用し、ユニットケアでの個別ケアを多職種で共有、
理解できるようにする。
- ・キャリアステージに合わせた教育が実施できるよう、外部研修に積極的に参加さ
せ、モチベーション向上とともに、自己覚知につなげる。
- ・人材育成システムを導入し、職員との面談記録、人事考課等の記録等、育成の進
捗管理ができるようにする。

○職員の負担軽減と安全なケアの提供

- ・職員の腰痛予防、負担軽減を目的とした、ノーリフティングケアを継続する。
- ・開設時より脱衣室に据付の手すりがないことで、アクシデント、インシデントが
発生していることから、安全なケア提供のため手すりの据付工事を行う。併せて
脱衣室の扉に鍵を設置し、安全に利用できるよう配慮する。（予算：50 千円）

(3) オレンジタウン笠寺 デイサービスセンター（定員 30 名）

昨年度はコロナ禍による通所サービスそのものの利用控え等があった。

今年度は、引き続き 1 日あたり 20 名（年間営業予定日数 310 日、延べ利用者数
の見込み 6,200 人（総合事業を含む））で計画し、事業活動資金収支差額は 12,380 千
円（対収入比 19.4%）を予定する。

① 利用者の尊厳を守り、自立支援に向けたサービスの提供

○ショートステイとの連携

引き続き、情報管理や連絡会議、職員配置等で一体運営に取り組む。

○自分で選べるプログラム

提供するプログラムの見直しを随時行う。利用者がそれぞれのニーズから、自分で
プログラムを選択できる取り組みを推進する。

その一環として、お菓子づくりやパン教室が開催できるよう、冷蔵庫ならびにオー
ブンレンジを更新する。（予算：240 千円）

○アウトカム評価

昨年度より ADL 維持等加算に向けた評価を継続し、今年度より算定が可能となる。
その他、個別機能訓練加算においても科学的介護への取り組みを行う。

○名古屋市自己評価・ユーザー評価事業への参加

自らのサービスの質を評価することで、課題抽出、解決へとつなげる。

② 人材確保と育成

○組織文化の醸成

職員手帳（ハウスルール）の作成、部門ごとの目標設定と PDCA など、善常会マイ
ンドのある自律した職員の育成に取り組む。

○教育体系の策定

- ・キャリアステージに合わせた教育が実施できるよう、外部研修に積極的に参加させ、モチベーション向上とともに、自己覚知につなげる。
- ・人材育成システムを導入し、職員との面談記録、人事考課等の記録等、育成の進捗管理ができるようにする。

③ 地域社会との共生

○ボランティアの活用

自分で選べるプログラムの実践に際しては、アクティビティの講師役、運営の補助など、地域のシニア層の方々にお力添えいただけるようコーディネートしていく。結果として、地域の方々の介護予防につながることを目指す。

(4) 特別養護老人ホーム オレンジタウン笠寺Ⅱ（定員 80 名）

開設 3 年目となる令和 3 年度は 97%の稼働率（1 日当たりの平均実利用者数 77.6 名、年間延べ利用者数の見込み 28,324 名）で計画、事業活動資金収支差額は 61,575 千円（対収入比 14.7%）を予定する。

なお、新型コロナウイルス感染症の流行が継続すると予想され、「コロナに感染しない、させない」よう感染防止に注力する。

① 利用者の尊厳を守り、自立支援に向けたサービスの提供

○暮らしの継続を意識したケアマネジメント

今年度も、ユニットケアの理念である「暮らしの継続」を目指し、24 時間シートをよりいっそう充実し、活用することにより、入居者一人ひとりにあったケアの実践を目指す。

○職員間の情報共有、ケア方法の統一

施設運営情報システムを活用し、適時適切に記録するとともに、「報告・連絡・相談」を徹底し、職員間で情報共有を図ることを目指す。

ケアマネジメントの必要性とその意味を理解し、サービス内容の統一を図るとともに、業務の効率化を目指す。

○科学的介護情報システム（L I F E）の利用

科学的に効果が裏付けられた自立支援・重度化防止に資する質の高いサービス提供の推進を目的として、令和 3 年度から運用が開始される「科学的介護情報システム（Long-term care Information system For Evidence : LIFE ライフ）に参加して、厚生労働省へのデータ提出とフィードバックの活用により、PDCA サイクルの推進・ケアの質の向上に取り組む。

○名古屋市自己評価・ユーザー評価事業への参加

自らのサービスの質を評価することで、課題抽出、解決へとつなげる。

② 人材確保と定着

○EPA 介護福祉士候補者等外国人スタッフの教育

今年度、初めて「E P A介護福祉士候補者」1名の受け入れを予定しており、資格取得に向けて支援する。支援に当たっては、他の外国人スタッフも含め、その国の文化や慣習の違いにも配慮する。

○職員の定着化

OJT、Off-JT を通して、未経験者には介護職のやりがい発見につなげ、キャリア採用者には善常会で働く意味を見つけてもらい、定着化を図る。

また、外部研修に積極的に参加させて、知識や技術の習得だけでなく、モチベーション向上とともに、自己覚知につなげる。

○職員の負担軽減と安全なケアの提供

職員の腰痛予防、負担軽減を目的として、ノーリフティングケアに取り組む。

入居者にも職員にも負担が少なく安全なケアを実践するための機器の導入についても、引き続き調査・検討する。

また、勤務時間等についても、職員の身体的・精神的な負担軽減につながるよう見直しをしていく。

(5) 居宅介護支援事業所 ケアプランセンターオレンジ (設置予定)

必要な人員を確保し、できるだけ早期の開設を目指す。